

1
JANUARY
2015

迎春



こ

が

古河

広
報

No.112

今月の主な内容

- | | |
|---------------|---|
| ● 年頭のごあいさつ | 2 |
| ● 提灯竿もみまつり | 4 |
| ● 火の取り扱いにご注意を | 6 |
| ● 産前産後サポート事業 | 8 |

謹賀新年

新三国橋と日の出



古河市長
菅谷 憲一郎

あけましておめでとうございます。

市民のみなさまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日ごろより「市民が主役」の市政執行に、深いご理解とご協力を賜りありがとうございます。

今年は新生古河市が誕生して10年という節目の年です。これまでの10年を糧に、これからの10年をつくり上げる最初の年と考えます。「若者に選ばれるまちづくり」を強力に推進し、活力ある古河市の実現にまい進いたします。

昨年、国に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置されました。地方の創生には安心して子どもを産み育てられる社会環境づくりが急務です。

古河市では、子育て支援のための財団の設立、小学校と中学校の連携による手厚い教育対策など、まさに地方の創生に欠かせない施策を進取の精神をもって取り組んでいるところであります。

人口減少に歯止めをかけ、お子さんもお年寄りの方も幸せを感じられる古河市となるよう誠心誠意努めます。

「住んでみたいまち古河市」と思える都市基盤・住環境の整備、自然環境の保全にも職員とともに一丸となって、さらに力を入れてまいります。

市民のみなさまのご多幸とご繁栄を衷心からお祈り申し上げ、年頭にあたってのごあいさついたします。



①



②



③



④

継がれていく 伝統

江戸時代から続く伝統行事「古河提灯竿もみまつり」。
待ちに待った年に一度の祭りが12月6日、JR古河駅西口のおまつり特設会場で行われました。

今回で154回目となるこの祭りには、大人部門に15団体、子供部門に11団体、約1,000人のもみ手が参加。長さ約20メートルの竹竿をぶつけあって、竿の先につけた提灯の火を消し合う祭りで、「関東の奇祭」の一つとされています。竹がバチン、バチンとぶつかりあう音と勇壮な掛け声が夜空に響き渡り、もみ手の人々の熱気が多くの観衆を魅了しました。

①②華むすめを先頭に、古河駅西口ロータリーを一周。子どもたちが手作り提灯を手にパレード

③地域の結束力がより高まる竿もみまつり。伝統行事を大切に受け継いでいます

④矢来と呼ばれる高さ13メートルの囲いの中で、激しくぶつかりあう。竿先にある提灯を間近で見上げ、見物人も大きな歓声を上げていました

提灯竿を 知ろう

江戸時代から続く伝統行事
提灯竿もみまつり



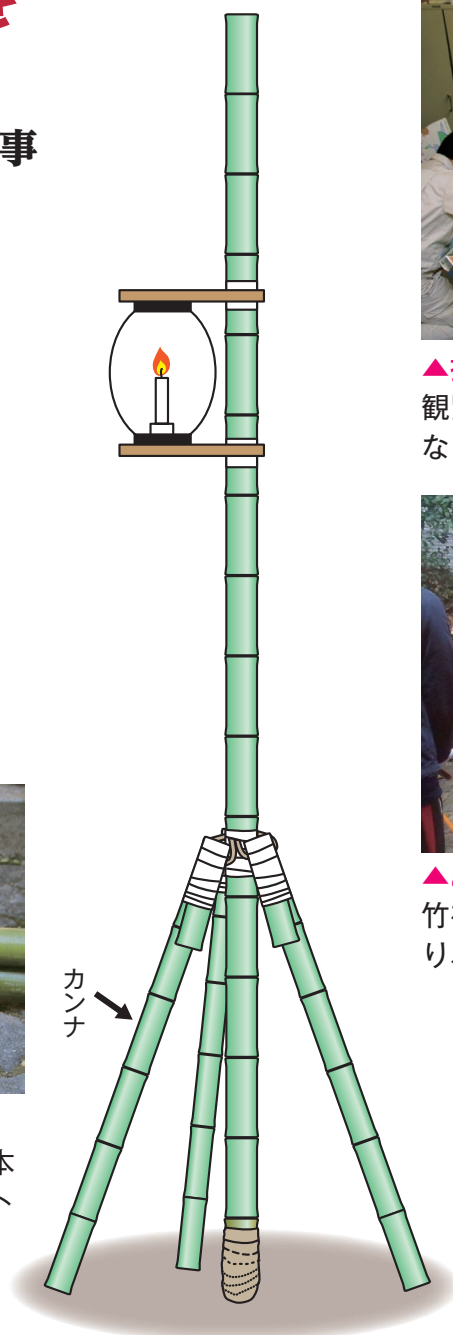
▲ろうそくの作製

火が消えたら競技は終了。各団体ではろうそくの芯づくりまで代々の秘伝があるようです。



▲カンナの作製

竿の揺れ方の要です。長い竿は3本のカンナと呼ばれる支柱でコントロールします。



※撮影協力：古河市職員互助会



▲提灯の作製

観覧者の楽しみです。「丸八提灯」だけでなく、趣向をこらしたデザインを描きます。



▲あぶら抜き

竹を割れにくく軽くします。青竹を火であぶり、曲がり方を修正しながら強度をあげます。



▲竿元の加工

移動をスムーズにします。竿の移動は竿元を引きずりながら行うので削って抵抗を減らします。



ご協力ありがとうございました

江戸時代から続く伝統行事「第154回古河提灯竿もみまつり」が12月6日、無事終了しました。当日はたくさんの団体にご参加いただき、祭りを盛り上げていただきました。誠にありがとうございました。

また、祭りの準備・当日の交通規制にご協力いただきました古河警察署をはじめ近隣住民の皆さま、関係各位に厚く御礼申し上げます。

古河市観光協会
古河提灯竿もみまつり実行委員会

火災から 大切な命を 守りましょう



寒さもいっそう厳しくなり、暖房器具を使う機会が多くなりました。空気が乾燥しているこの時期は、火災が特に多く発生します。

火災を未然に防ぎ、尊い命と貴重な財産を守るためにも、一人ひとりが防火意識を高めましょう。

【問】危機管理防災課(総和庁舎) ☎92-3111

火元の確認と火災警報器の設置

平成26年1月～11月に市内で発生した火災は41件で、そのうち建物火災は21件です。冬になると、ストーブやこたつなど暖房器具の消し忘れによる火災が多くなります。外出前や就寝前には、必ず暖房器具の確認をしましょう。

また、万が一、火災が起きてしまった場合、早期発見には住宅用火災警報器が非常に有効です。平成23年6月1日から、すべての住宅に設置が義務づけられました。まだ自宅に設置をしていない人は早めに設置し、逃げ遅れを防ぎましょう。

市消防団による広報・パトロール活動

平成26年11月9日から15日の「秋の火災予防運動」に合わせて、女性消防団員による日中の広報活動や、市消防団による夜間パトロールを分団ごとに行い、市民に火災予防を呼び掛けました。

平成26年度全国統一防火標語は『もういいかい 火を消すまでは まあだだよ』。一人ひとりが火災予防意識を高めることが大切です。



地域の防災力を高める自主防災訓練を開催

11月23日に、大和田小学校の校庭で第17地区主催による自主防災訓練が開催されました。災害時のみならず日ごろから「自らが何をすべきか」を考える機会として毎年開催されており、今回で18回目。AED(自動体外式除細動器)を使った心肺蘇生訓練、しんぱいそせい粉末消火器を使用した初期消火訓練、煙体験、地元消防団による放水訓練などが行われました。地域の結束力が、万が一のとき大きな力となります。



▲消防署員から消火器の使い方を学びました

守りたい人がいる
守りたい地域がある

地域の安全を守る消防団

消防団は「わがまちを災害から守る」という使命感のもと、地域に密着した防災リーダーとして地域の有志の人々によって組織されています。消防署だけでは対応できない突発的に起こる災害から地域住民を守ることを任務としています。

火災発生時の消火活動や風水害、地震などの災害時における避難誘導や救助・救出活動、それらに備えるための訓練を行っています。災害発生時には、昼夜を問わず、率先して市民の生命・財産を守るため出動しています。



消防団の活動



消防団員基本訓練



二市一町合同水防訓練



消防ポンプ操法練習会



機械器具置場点検



女性消防団員による
防火啓発活動



春季点検式

▲2月22日に中央運動公園で消防春季点検式が行われます。第1分団から第27分団の消防ポンプ車が集結し、消防団員の規律正しい姿を披露します

消防団員 募集

自分たちのまちは 自分たちで守る

現在、消防団員数は全国的に減少傾向にあり、本市でも確保が難しくなっています。しかし、地域の防災力を保つためには、多くの消防団員が不可欠です。

お住まいの地域の消防団に入団し、力を合わせて地域を守る活動に参加しませんか。詳しくは問い合わせください。

【問】危機管理防災課(総和庁舎) ☎92-3111



産前産後サポート事業 ～安心して子育てするために～

市では、平成26年9月から「産前産後サポート事業」を実施しています。この事業は、平成26年度厚生労働省の妊娠・出産包括支援モデル事業として、母子保健相談支援事業、産後ケア事業、子育てサロン事業の3つを行っています。

妊産婦のさまざまな不安や心配に対しての相談体制を整え、安心して子育てしていけるようサポートしますので、お気軽にご相談ください。

【問】健康づくり課(古河福祉の森会館内) ☎48-6881



母子保健相談支援事業

母子保健コーディネーターや保健師が妊産婦の相談に対応し、子育てや必要なサービスについて情報提供します。体調不良や育児に不安のある妊産婦に対しても、適切な支援を継続的に行いサポートします。

産後は実家に手伝ってほしいけど、頼れない……。

産後、上の子を預けることはできるの？



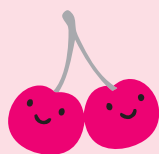
これでいいの？
だれ
誰にも聞けない……。

母乳で育てたい。
どうしたらいい？

引っ越してきたばかりで知り合いがいない。
ママ友できるかしら？

子育てサロン事業

助産師や保健師等が、妊産婦の悩みや子どもに関する相談に対応します。母親の仲間づくりや地域の子育て情報の提供を行い、子育てを支援します。育児サロンの詳細については、問い合わせください。



総和福祉センター「健康の駅」で、^{ふたご}双子を持つ親の会として『さくらんぼクラブ』を実施しています。^{そふたい}双胎の妊婦や双子の親子の参加をお待ちしています。





産後ケア事業

赤ちゃんとの生活に慣れるために、医療機関や在宅の安心できる環境で、助産師等が母親の心身のケアや乳児ケア、育児サポート等の相談支援を行います。

対象

出産後おおむね1カ月の産婦とそのお子さんで次に該当する人

- ①古河市民
- ②体調不良や育児に不安のある人
- ③産後の経過に応じた休養や育児のサポートが受けられない人

※医療行為が必要な人は利用できません。

利用方法・利用期間

利用料金および利用期間等の詳細は、健康づくり課へ問い合わせください



宿泊型産後ケア

医療機関へのショートステイをして産後の疲れた心身を癒し、ゆっくり体調を整えながら、子育てに必要な知識や技術を身につけることができるサービスです。

サービス内容

- ・母へのケア(健康状態、乳房ケア、休息に関すること等)
- ・お子さんへのケア(発育、発達、栄養等)
- ・育児サポート(授乳指導、スキンケア、沐浴指導、育児相談等)

実施施設

秋葉産婦人科病院 [東本町2-9-2]

訪問型産後ケア

産後、助産師が自宅へ訪問し、赤ちゃんとの生活に慣れるためのサポートを行い、育児不安を解消するサービスです。

サービス内容

- ・母へのケア(健康状態、乳房ケア、休息に関すること等)
- ・お子さんへのケア(発育、発達、栄養等)
- ・育児サポート(授乳指導、スキンケア、沐浴指導、育児相談等)

実施体制

秋葉産婦人科病院および船橋レディースクリニックの助産師の協力を得て実施しています

授乳が
うまくいかない。

なぜ泣いているのか
分からず不安……。

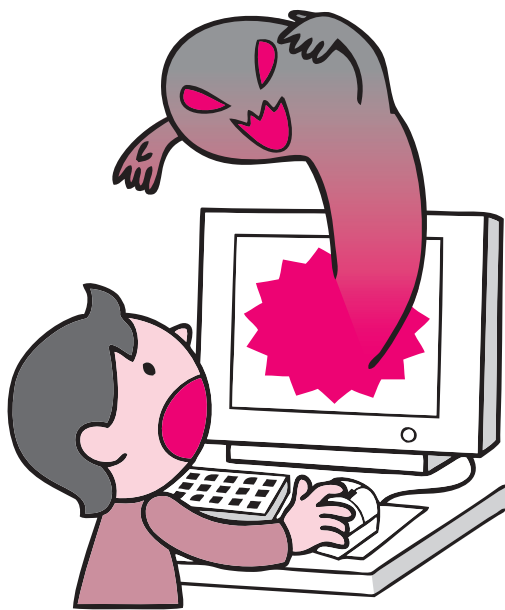
こんなはずじゃ
なかったのに……。



夫は仕事。家事も育児も
疲れて大変……。

実家には頼れない。

眠れない……。
一人でつらい……。



クリックは慎重に！

～「ワンクリック請求」にご用心～

最近、インターネットを利用中に画像などをクリックしただけで、自動登録されて料金を請求されたという消費生活センターへの相談が急増しています。これは「ワンクリック請求」と呼ばれるもので、突然の請求に動揺してお金を支払ってしまったら、取り戻すことは困難です。

「ワンクリック請求」に遭ってしまった場合の対処法を紹介します。

古河市消費生活センターに寄せられた相談 「スマートフォンのアダルトサイト」

相談内容

スマートフォンでアダルトサイトの無料画像を見るために、「18歳以上」をクリックしたらいきなり「登録完了」となり、9万9,800円を請求されてしまいました。驚いて電話をしたら「払え」と言われたため、「考えておく」と言い電話を切りました。どうしたらよいのでしょうか。

対応結果

「ワンクリック請求」と考えられるので、何もせず様子を見ることです。

こちらから電話をしたことで電話番号が知られているため、今後も電話がかかってくるのが考えられますが、出ないようにしましょう。

消費生活センターからのアドバイス

- 「ワンクリック請求」であれば法的に契約不成立と主張できるケースがあるので、慌てて連絡をしたり、お金を支払ったりしないようにしましょう
- 心配なことがあったら古河市消費生活センターにご相談ください

この他にも、古河市消費生活センターに寄せられた相談事例を市公式ホームページで公開しています。

古河市消費生活センターのご案内

相談日 月曜日～金曜日
(祝日・年末年始を除く)
時 間 午前9時～正午
午後1時～4時
場 所 市役所総和第2庁舎3階
(商工政策課内)

☎92-8811

出前講座開催中

『私はダマされない！』

～消費者被害に遭わないために～

消費者トラブルに遭わないために、正しい知識を身に付けるお手伝いをします。費用は無料です。

宝くじのコミュニティ 助成金を活用

古河市消防団が宝くじの助成を受けて、消火訓練のための備品を購入しました。

この助成は、宝くじの社会貢献広報事業として、(一財)自治総合センターが行っているものです。安全な地域づくり等に対して助成を行うことで、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図ることを目的としています。

今回購入したのは組み立て式防火水槽と水槽用給水器、消火訓練用の標的ですが、

古河市消防団は、これらの備品を活用し、災害発生時に迅速に対応できるよう日々の訓練に励んでいきます。



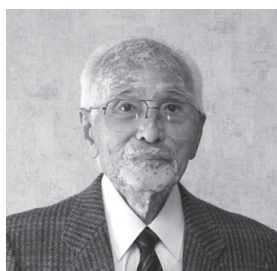
▲組み立て式防火水槽(左)と水槽用給水器(中)、消火訓練用標的(右)



叙勲・各種表彰

高齢者叙勲

瑞宝双光章



生井 盛造さん
(88歳、下山町)
元古河市立
古河第五小学校長

厚生労働大臣表彰

生活衛生事業功労者 (水道関係功労者)



関口 守男さん
(78歳、下大野)
元総和町簡易小規模水道
組合連合会会長

茨城県うるおいのあるまちづくり 顕彰事業まちづくりグリーンリボン賞

明治期に建築された店蔵である「今城蔵」を活用したまちなか交流拠点(食の複合店舗)の整備が、うるおいのあるまちづくりに功績があると認められました。



古河「今城蔵」保存活用まちなか再生事業
(合同会社古河鍛冶町みらい蔵)

全国大会出場

【第2回全国シニア(40歳以上)サッカー大会】
ラッツォス古河FC(古河市サッカー協会)

【第33回全国高等学校弓道選抜大会】

・女子団体：古河第二高等学校
(関口真愛さん、永塚ひなのさん、篠崎夏実さん、日影館岬さん)

注目! まちの話題

……古河の魅力在全国に発信
NHKラジオ公開生放送へ……

11月19日、「お休み処^{さかちやう} 坂長」の石蔵で、NHKラジオ番組『ここはふるさと旅するラジオ』の公開生放送が行われました。

番組は、「レトロ」で活気を取り戻せ!というテーマの内容で、古河華むすめと観光ボランティアガイドが古河の歴史と文化の魅力を紹介しました。また、まちづくり会社の「古い蔵を活かしたまちづくり」や、名物「七福カレーめん」のPRなど盛りだくさんの25分間でした。

当日は、会場に入りきれないほどの観覧者の熱い歓声と拍手で盛り上がり、古河の活気を全国に届けました。



▲アナウンサーとの軽快なやりとりで古河市の魅力を伝えていました

……中学生が考える現在と未来
～未来は僕らが主人公～……



▲将来の夢をはっきり主張しました

11月18日、ユースセンター総和で「第6回古河市中学生の主張大会」が中学生も司会など運営に協力して開催されました。今回から古河中等教育学校も参加し、それぞれの学校代表者10人が、中学生が日ごろ考えている平和や環境、命の大切さについてのさまざまな主張・提案がありました。

ある主張では「多くを理解できない小さな私に大切なことをたくさん教えてくれていた祖父に感謝している」と、自分の成長を振り返っての意見を述べる立派な姿がありました。

……地域で安心して暮らしていくために
～地域福祉に関する意見交換会～……



▲変化する社会情勢に対応する福祉を目指します

11月、古河市と古河市社会福祉協議会の主催で、「地域福祉に関する意見交換会」が行われました。「地域で安心して暮らしていくために」をテーマに、古河・総和・三和の3会場で、非常にたくさんの貴重なご意見をいただきました。これをもとに、『第2期地域福祉計画』『第2期地域福祉活動計画』を新たに策定していきます。

住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりのため、住民同士で支え合えるまちをつくっていきましょう。

『ごしょ丸くん』『コウノちゃん』
市内小中学校でゆるキャラが誕生しました

市内の各学校で独自の「ゆるキャラ」が誕生し、注目を集めています。

古河第五小学校のゆるキャラは、創立50周年を迎えた平成19年に、当時5年生だった村越浩平さんがデザインしたものです。今年の文化祭で児童から名前を募集し、6年生の須永那月さんの『ごしょ丸くん』に決定しました。丸くてかわいい見た目と学校名から名付けたそうです。校長の森田先生は「ごしょ丸くんがいることで、児童たちがよりいっそう五小を好きになってくれれば」と話します。

古河第二中学校のゆるキャラ『コウノちゃん』。生徒からアイデアを募り、2年生の茂田桃加さんの発案に決まりました。名前の由来は、文化祭「鴻の鳥祭」。生徒一人ひとりが夢や希望を持って、幸せに学校生活が送れるように、との思いが込められています。今では小学校でのあいさつ運動や地域の行事などにも参加しています。生徒会長の渡辺惟さんは「これからもコウノちゃんと一緒に古河市を明るくしたい」と話してくれました。

児童・生徒から大人気のゆるキャラたち。今後も学校生活や地域を盛り上げていきます。



▲11月に行われた「科学の祭典」に登場した『ごしょ丸くん』



▲愛くるしい顔立ちと雪華模様のバッグが特徴の『コウノちゃん』

笑顔あふれる異文化交流
～ウインターフェスティバル2014～

12月7日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で、古河市国際交流協会主催の「ウインターフェスティバル2014」が行われ、14カ国から約500人が参加しました。

ステージでは各国の参加者による日本語スピーチや、民族衣装での伝統舞踊が披露され、大いに盛り上がりを見せました。

和服の試着体験などの日本文化体験コーナーのほか、各国の紹介ブースでは、それぞれの国の民芸品や物産、郷土料理を販売。参加者たちは、料理に舌鼓を打ちながら会話に花を咲かせていました。

関東のド・マンナカで、師走の寒さを吹き飛ばす温かい国際交流の輪が広がりました。



▲色とりどりの民族衣装は多くの人を魅了



▲日本文化を代表する着物の試着は各国の人たちにも好評でした

キラッ! 輝く人だち

日の当たる窓や壁をゴーヤなどのつる性植物で覆うことで、室内の温度上昇を抑える「緑のカーテン」。

今月は、市の環境課が主催した『みどりのカーテンコンテスト』で2年連続、個人の部・最優秀賞を受賞した田上春男さん・三重子さんご夫妻を紹介します。緑のカーテン作りで植物を育てる喜びや収穫の喜びを感じながら、身近なエコライフを楽しんでいるお二人に話をうかがいました。

試行錯誤の繰り返し

東日本大震災以降、夏場は電力不足により節電が求められ、「緑のカーテン」を作る人が増えてきました。

田上さんご夫妻も、緑のカーテン作りを始めて3年目。テレビで省エネになると紹介されていたのがきっかけだったそうです。やるからには徹底的に研究する春男さん。「ゴーヤの育て方」「つるの伸び方」「病気」「肥料を与えるタイミング」「水やりの注意点」などをインターネットで調べ、実践しました。

昨年の夏は4つのプランターにゴーヤ8株を植え、自宅を取り囲むように高さ3メートル、幅6メートルのグリーンカーテンが完成。

「8株中、5株は前年収穫したゴーヤから種をとり苗を仕立てたもの。硬い殻で包まれているゴーヤの種は爪切りで出っ張った部分を少し切り取り、一晩水につけました。温度調整が難しく、発芽せずに腐ってしまうことも。10個で1個くらいの確率です」と、お二人とも発芽させる難しさを実感したそうです。

緑のカーテンは環境問題の入り口

田上さんご夫妻は、米のとぎ汁や風呂の残り湯を再利用した水やりなど、栽培の過程でも環境を意識した取り組みを実践しました。

「毎日朝・夕の水やりは一仕事。朝は水道水、夕方は前日の風呂の残り湯を利用。バケツで何度も往復しました。水道の蛇口をひね

「暮らしの中での 小さなエコ活動」

田上春男さん・三重子さん（東諸川）



れば簡単なんですけどね。やっぱり環境に少しでも優しい活動がしたくて」と話します。

心とまかせてくれる 優しい緑のカーテン

4月下旬に種を蒔き、初収穫は7月17日。苦労を経て、ようやく収穫できたときは感動もひとしお。「ゴーヤを育ててエコにつながるものが何より嬉しい。日常生活のなかでこのような感動を味わえる機会はなかなかありません。失敗も含めてその面白さを感じています。もっと参加する家庭や企業、団体が増えればいいですね」と、エコ活動の地域への広がりを期待しています。

「緑のカーテンを抜けて入る光は本当にきれい。あの緑の色がなんともいえない」という田上さん。来夏も、もちろん挑戦するそうです。



▲昨年はゴーヤ302本を収穫。毎朝ゴーヤ・バナナ・牛乳でスムージーを作って飲むのが日課でした

図書館のオススメ

◇一般書

・翼、ふたたび

江上 剛 著
経営破綻したヤマト航空。外部から招かれたカリスマ経営者のやり方に反感を抱く社員たちだが、次第に意識が変わり、社内がひとつになっていく。そして東日本大震災が起こり……。航空会社再生をモデルにした経済小説。出版社…PHP研究所
分類…Fエ



・竹鶴政孝とウイスキー

土屋 守 著
スコットランドへの単身の留学と実習、リタとの運命的な出会いと結婚、北海道余市でのウイスキー会社創業……。ウイスキーの製造方法を記した自筆の「竹鶴ノート」を中心に、類ま



れな男の人生と仕事の全貌を明らかにする。
出版社…東京書籍
分類…588ツ



◇児童書

・しょうてんがいふしぎどおり

内田 麟太郎 作
おばあちゃんと出かけると、商店街はふしぎなことだらけ。時計屋さんの砂時計に旅のらくだが見えたり、おばあちゃんの幼なじみの本の虫さんたちが本屋さんにいたり……。今度は、何が起こるかな？
出版社…佼成出版社
分類…Eシ

・たんぽぽの目

村岡 花子 著
面白くて、愉快で、ちょっぴりしんみりする、村岡花子珠玉の童話集。表題作をはじめ、「みみずの女王」「ナミダさん」など、昭和の子どもたちに親しまれた童話の名作全26篇を収録。
出版社…河出書房新社
分類…913タ



古河図書館

注目 企業人

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～
「みんなの『おいしかったよ』のために」

ミヤト製菓株式会社勤務 梅田 健一さん

現在の会社に入社してから6年、幅広い世代におなじみのおやつ、かりんとうの製造業務に携わっています。

梅田さんの担当は製造の中でも「ロール」と呼ばれる業務。発酵させたかりんとうの生地を機械でのぼし、製品の形に合わせて成形していく作業で、油で揚げるとつ前の工程です。

この業務に求められるのは体力と集中力。成形する前の生地は大変重いため、機械に流すだけでも一苦労です。成形に使う機械には圧延用の大きなローラーや裁断用のカッターが付いているため、常に安全に配慮する集中力が必要です。

製造工程はライン作業。「途中で止めることはできないため、日々の機械のメンテ

ナンスにも細心の注意を払う」と梅田さんは話します。

お客様の口に入る食品を扱うだけに神経を使う仕事ですが、それだけに自分が製造したかりんとうを家族や友人から「おいしかったよ」と言ってもらえたときが何よりもうれしい、と笑顔で語ってくれました。

■プロフィール

自身も甘いもの好き。趣味はフットサルとギター。休日は子どもと公園でアスレチックやボール遊びをしています。
28歳・久能在住。



古河文化見聞録

古河市と市町村合併

平成27(2015)年は、新生「古河市」が誕生してから10年という節目の年となります。今から10年前の平成17(2005)年9月12日、旧古河市・旧総和町・旧三和町の3市町が合併して新しい古河市となりました。

今年は干支でいうと「乙未」(きのとひつじ)ですが、実は60年前の乙未年、つまり昭和30(1955)年という年は、現在の古河市を構成する旧古河市・旧総和町・旧三和町がそれぞれ誕生した記念すべき年でもありました。

そこで今回は、還暦を迎えた旧古河市・旧総和町・旧三和町の誕生と、その経緯などについてみていきたいと思います。

昭和の大合併

3市町誕生の前に、その契機となった、いわゆる「昭和の大合併」について、少しみてみます。

第2次世界大戦後の昭和22(1947)年4月に、それまでの市制・町村制が廃止され、市町村の自治権拡張と民主化を達成するために、新たに地方自治法が公布されました。その後、地方自治の強化を目的として、昭和28(1953)年10月に町村合併促進法が施行されます。

茨城県でも「茨城県町村合併促進審議会条例」が同日に施行されて、その審議の過程で
①合併町村は3町村を最低の基準とする。
②人口規模は8,000人以上をめざす。
③合併推進にあたっては、各町村に合併研究組織と合併促進協議会を設置して作業を進める。

などが合併の基本方針として示されます。

これらを受けて、猿島郡内でも町村合併の試案づくりが進められ、その年の12月9日に

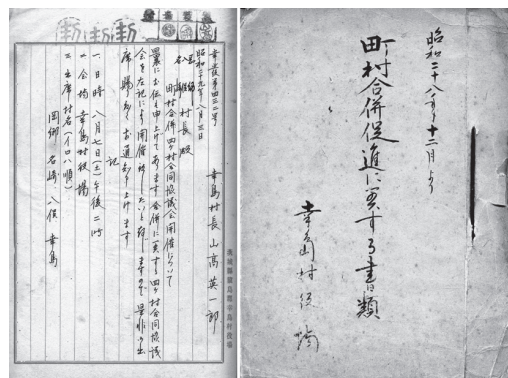
開かれた猿島郡内の町村長・議会議長会において、岡郷村・桜井村(いずれも旧総和町)・八俣村・幸島村(いずれも旧三和町)の4村合併案など、いくつかの組み合わせ案が出されました。

三和町の誕生

こうした猿島郡内の動きに対して、いち早く対応したのは幸島村でした。

幸島村では、昭和28年12月29日に「町村合併についての基礎調査と、事務の研究に努め、合併の実現によって地方自治の確立に寄与することを目的」とする幸島村合併調査研究協議会が立ち上げられ、昭和29(1954)年3月から具体的に合併についての検討が始められました。この時点では、岡郷・八俣・名崎(旧三和町)との合併協議が進められます。

しかし、9月に入って岡郷村が合併案から離脱したため、残った幸島村・八俣村・名崎村の3カ村は9月13日に新たに合併協議会を結成しました。11月25日に各村議会において3カ村合併が一斉に議決され、12月2日に合併申請書を茨城県知事に提出、12月19日の県議会において議決されて町村合併が承認



◀「町村合併促進に関する書類」と合併協議会開催通知



▲香取村解散記念写真

され、翌昭和30年2月11日、三和村が誕生しました(昭和44年に町制施行)。

総和町の誕生

もともと旧総和町域は、猿島郡の西部地区にまともって一地域を構成しており、従来から「西部部会」として同歩調・同行動をとることが多い地域で、昭和28年に出された茨城県の合併方針を受けて、香取村長を会長とする猿島郡西部町村合併促進協議会が結成され、さまざまな合併案が協議されました。

昭和29年3月には、勝鹿(旧総和町)・新郷(旧古河市)・香取(旧総和町)・桜井・岡郷・静(現境町)の6カ村合併案が討議され、その後、静村が離脱して5カ村合併が進められます。しかし8月に入って、新郷村が合併から離脱して再び振り出しに戻りました。

その後、旧古河市も絡んでいくつかの合併案が出されては消え、最終的に11月に入って岡郷・勝鹿・香取・桜井の4カ村合併案が決定。12月16日に各村議会において一斉に4カ村合併が議決され、翌年の昭和30年3月16日に総和村が誕生しました(昭和43年に町制施行)。

古河市の誕生

旧古河市は、周辺地域同様に町村合併促進法施行直後から近隣町村との合併を模索し始め、その対象として猿島郡の勝鹿・新郷の2村を想定しました。もともと古河市は、昭和25(1950)年に旧古河町が単独で市制を施行するまでは猿島郡に属しており、さらにそれ以前の昭和22年12月の段階で、勝鹿村と合



▲古河市・新郷村合併記念式典

併して古河町を市に昇格させるという案もありました。

昭和29年7月には、新郷・勝鹿村を古河市に編入するように勧奨したいという県からの意向が示されますが、新郷・勝鹿2村は香取・桜井・岡郷村との5カ村合併で動いており、県の勧告案はいったん否定されました。さらに先述したように、8月に新郷村が5カ村合併協議から離脱します。それでも新郷村では、最後まで勝鹿村・岡郷村との合併を模索してさまざまな働きかけをしますが、結局12月17日の村議会において古河市との合併を決定しました。昭和30年3月15日、古河市と新郷村が合併して、この時点で新しい古河市が誕生しました。

このように、これまでの旧3市町の合併に至る過程をみていると、それぞれの地域のさまざまな思惑や事情によって数多くの合併案が浮上しては消滅していきました。しかし大局的にみれば、多少のズレはありますが現在の古河市の範囲内で合併協議がなされており、それだけこの地域が古くから強いつながりを持っていたということもできるかもしれません。

文化課学芸員 峯 照男

ウォーキングで 身体も脳も健康に！

～認知症予防シリーズ①～

ウォーキングは身体全体の血流を良くし、生活習慣病の予防にも効果的な有酸素運動ということは皆さんもご存じだと思います。脳の血流が良くなり、脳の活性化にもつながるため、認知症の予防にもとても効果的です。

ウォーキングのポイント

- ウォーキングは1日30分以上、週3回を目標に！
⇒いつもより歩幅を広げて歩く早歩きでのウォーキングは認知機能の維持・改善が期待できます
- 正しい姿勢で歩くようにしましょう
- 自分に合った靴を選びましょう
- 水分補給を忘れずに

ちょっとした工夫で 「脳への効果アップ」& 「楽しさアップ」

ウォーキングは、毎日決まったコースを歩いているという人が多いと思いますが、定期的にコースを変えてみると効果的です。今まで気づかなかった新しい景色に出会えて



脳に刺激を与えます。

ウォーキングコースをいくつか作することは、認知症の発症を遅らせるための3つの機能を高める効果があります。

①計画力を鍛えましょう

ときどき地図を広げて、歩くコースの計画を立ててみましょう。公園や新しくできた道を歩いてみたり、友人を訪ねてみたりすると、いつもと違う道で新しい発見があるかもしれません。

複数のウォーキングコースを決めることで計画力を鍛えましょう。

②注意分散機能を高めましょう

ウォーキングをしながら、コースに咲いている季節の花の名前を調べたり、きれいな景色や珍しいもの、季節の行事などをカメラで撮ったりしましょう。

また、仲間とのおしゃべりや、歩きながら俳句を一句詠んでみるなど、ながらウォーキングが脳の注意分散機能を高めます。

③エピソード記憶を鍛えましょう

今日歩いたコースを思い出し、歩いた道や時間・歩数、見た景色や出会った人、出来事などを記録してみましょう。「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」といったエ



ピソード記憶を鍛えることができます。

撮った写真を一緒に貼ったり、景色や花を絵にかいたりすると、よい思い出にもなりますね。

ウォーキングシートを活用してみませんか

高齢福祉課では、多くの市民の皆さんにウォーキングを楽しみながら継続してもらうために「ウォーキングシート」を配布しています。

歩いた歩数を記録して、シートを塗りつぶしていくことで、いろいろな場所へ行った気分になります。

ウォーキングシートは、『富士登山』『日光街道』『四国八十八ヶ所お遍路めぐり』の3コースがあります。興味のある人は高齢福祉課へ問い合わせください。

◎次回は認知症を予防する食事について紹介します。お楽しみに。

高齢福祉課

御所沼の冬の野鳥たち

冬本番。古河総合公園の園内の木々も彩りを薄め、寒さに耐えながら静かに佇んでいようようです。

そんななか、この季節ならではの光景が、にぎわいを見せる野鳥たちです。実は今の季節は野鳥たちを見るには最適で、その理由は、①木の葉が落ちていたので見つけやすい。②渡り鳥や高地の鳥が暖かい平地に移動するので、普段見られない鳥に会える。③群れを作る鳥が多い。などなど。

ということで、今回はそんな野鳥たちのなかで、園内の『御所沼』にやってくる渡り鳥や水辺に集まる鳥たちをご紹介します。

まず、いちばん目にするのが「カルガモ」です。集団で水面にぷかぷかと浮いていたり、水辺をちょこちょこと歩いたりする姿はなんとも愛らしいかぎりです。



【カルガモ】

同じく水面や水辺にいる「オオバン」。ハス池にやってくる「バン」よりも少し大きく、黒い羽根で覆われ、おでこにくちばしが白いのが特徴です。

この他にも「カイツブリ」や「川鵜」などのように潜って魚を捕る鳥や、水辺で待ち伏せをして獲物を狙う身体の大きな「アオサギ」や「ダイサギ」



【上：オオバン、
下：アオサギ】

などもやってきます。

そして、この公園でもっとも私たちの目を引くのは、鮮やかな青い羽根、長くくちばしの「カワセミ」でしょう。体はスズメほどの大きさですが、くちばしが長いため、少し大きく見えます。また印象的なのが餌の捕り方で、水辺の石や枝の上から獲物を狙い、水中に飛び込んで魚や水生昆虫、エビやカエルなどをくちばしで捕らえます。沼の周りを歩いて「チー、チー」という声が聞こえたら、そんな場面を間近で見られるかもしれません。



【カワセミ】

自然豊かな総合公園には、この他にもたくさんの野鳥たちが集まってきます。寒さの厳しいこの季節ですが、ぜひ野鳥たちに会いにきてください。そして、そっと見守ってあげてください。

【問】 古河総合公園管理棟
☎47-1129



あけましておめでとうございます。

今年の干支は「未」。表紙の写真は、隣県の動物園に行つて撮影しました。「ヒツジたちの仕事はひたすら『食事』。一日中、牧草を食べ続けていますよ」という飼育員さんの言葉にあぜん。2時間半カメラを構え続けて、やっと撮った一枚です。モデルはコリデール種の「テトラ」。この品種はオス・メス共に角がなく、顔とあしが白くて、それ以外はモコモコの毛で覆われているのが特徴です。

今年も市民のみなさんにとって、喜びと幸せに満ちあふれ、ヒツジの毛のように心があたたかい一年となりますように。

【編集部一同】

古河市データ

人口



(12月1日現在) 住民基本台帳から
総人口… 145,263人 (－ 96)
男……………72,977人 (－ 87)
女……………72,286人 (－ 9)
世帯数…58,188世帯 (－ 10)
() 内は前月比

わが家のアイドル



海老澤 ^{りょうえい} 稜英くん (2歳6カ月・下大野)

朝、学校へ行く「にいに」を家の前の道まで見送るのが毎日の日課。にいに大好き！歌と踊りが大好き！話すの大好き！

たくさん遊んで、思い出たくさん作ろうね。「にいに」と「りょうたん」は、パパとママの大切な宝物だよ。(父：真一 母：房子)

今月の料理

長芋のあえ物 ＜高血圧予防食＞



- ①長芋200gは皮をむいて酢水につけ、水気をふいて粗みじん切りにする。
- ②キュウリ1本はいちょう切りにする。リンゴ1/2個は皮つきのいちょう切りにし、塩水につけて水気をよくきる。ナメコ1袋はさっと湯通しをし、水気をよくきる。
- ③①②を混ぜ合わせて器に盛り、酢大さじ1、だし大さじ1、塩小さじ1/2を合わせたものをかけ、わさびを少量のせる。

＜4人分＞

（1人分）

エネルギー＝61kcal
タンパク質＝1.7g
脂質＝0.3g
カルシウム＝18mg
食塩相当量＝0.8g



(食生活改善推進協議会)

日々奮闘！



子育てアドバイス

予防接種 忘れていませんか？



子どもが成長するともにお母さんからもらった病気への抵抗力(免疫)は、そのほとんどが生後一歳までに失われていきます。そのため、お子さん自身が免疫をつくって病気を予防する必要があります。

その助けになるのが「予防接種」です。予防接種はお子さんが病気にかかるのを防ぐだけでなく、みんなが接種することで流行をくい止めるという大切な意味もあります。

●**予防接種の種類**

予防接種には「定期予防接種」と「任意予防接種」があります。

定期予防接種は予防接種法で定められ、予防接種を受けるよう努めなければならない年齢(月齢)に該当すると無料で接種できます。感染力が強く、発病すると重症になったり、後遺症を残したりする病気を対象に定期接種が行われます。

ています。

任意予防接種は本人あるいは保護者の同意のもとに接種するもので、費用は全額自己負担です。

ここ数年、予防接種が大きく変わっています。

平成25年4月から、それまで任意接種だったヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンが、26年10月から水ぼうそうワクチンが定期予防接種になりました。

定期予防接種が増えたことで「スケジュールを立てるのもひと苦労」という声をよく耳にします。お子さんの体調をみながら早めの接種をお勧めします。

●**予防接種の受け忘れはありませんか？**

追加接種等を忘れている人もいます。もう一度、お子さんの母子健康手帳を開いて、予防接種の接種もれがないか確認してみましよう。

健康づくり課

平成27年1月1日発行

●発行所／〒306-0291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 0280-923111
●編集／秘書広報課 ●ホームページ／<http://www.city.futatabi-kogai.jp/>